



会場の本通り商店街・しんまち遊ロードに訪れた多くの来場者

商店街を活性化し魅力を再発見

■まきのはら産業フェア2018

商店街を盛り上げ活性化につなげようと「まきのはら産業フェア2018」が11月18日、本通り商店街・しんまち遊ロードを会場に開催されました。

約400メートルの歩行者天国では、市内の企業や団体をはじめ、姉妹都市の長野県松川町や友好都市の熊本県人吉市など、約80団体が特産品の販売や日ごろの活動を紹介しました。

市内外から訪れた大勢の来場者は、市の特産品である自然薯やミカン、交流都市のワインやリンゴなどを買い求め、会場はにぎわいました。

秋の牧之原路を歩いて健康に

■まきのはらビタミンウォーク2018

11月11日、秋の市内を楽しく歩く「まきのはらビタミンウォーク」が行われました。

今年は、富士山静岡空港を発着地に6キロコースと14キロコースが用意され、市内外から参加した約500人が広大な茶畠などの景色を眺めながらウォーキングを楽しみました。

参加者は、コース途中に設置された休憩所で呈茶サービスや果物、お菓子などのおもてなしを受けたほか、地場産品が当たる抽選会に参加するなど、牧之原市の魅力を堪能しました。



はいばら太鼓保存会の演奏と共にスタートする参加者

大きなサツマイモがい～っぱい

■サツマイモ収穫体験

11月20日、JAハイナン青年部萩間支部の畑で、菅山保育園の5歳児22人がサツマイモの収穫体験をしました。

この体験は、土に触れて作物の収穫を楽しんでもらおうと、毎年5歳児クラスを畑に招待して行なっているもので、園児たちは自分の顔ほどもある大きなサツマイモを、青年部メンバーに協力してもらいながら掘り起こしていました。

体験をした園児は「大きいお芋がいっぱい取れて楽しい」と話してくれました。



大きなサツマイモを掘り出す園児

田沼のまちとむらを振り返る

■市史料館特別展「田沼のまちとむらを歩く」

来年に控えた「田沼意次侯生誕300年」を記念した特別展「田沼のまちとむらを歩く—昔の地図を見よう！」が、11月13日から12月2日まで、市史料館で開催されました。

会場には、新たに発見された「相良城下町絵図」(複製展示)をはじめ、江戸時代の古地図や明治・大正時代の街並みの写真が展示されました。

訪れた人々は、展示された古地図などを興味深そうに眺め、田沼の「まち」と「むら」だった頃に思いを馳せていました。



「相良城下町絵図」を鑑賞する来場者

広報担当がどこにでも取材に行きます。

あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

情報交流課 ☎0040 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp

ズームイン！
カシャ！！



サブレでビタミンB 1を発信

■鈴木梅太郎博士、ビタミンB1、ラッカセイサブレのPR

郷土の偉人鈴木梅太郎博士の母校、地頭方小学校の3年生33人が11月13日、総合学習でビタミンB 1とビタミンの日について学んだ成果と、学校で栽培したラッカセイを使ったサブレのPRを市役所相良庁舎で行いました。

児童らは、ビタミンB 1が豊富に含まれる食品の中からラッカセイに注目。千葉県から種を取り寄せ、生産者の指導のもと栽培したラッカセイを使い、地元菓子店の桃林堂の協力でサブレを開発しました。

試食した参加者は「ラッカセイとクッキーの食感がなくておいしい」と高評価。児童は「ラッカセイサブレでビタミンB 1やビタミンの日を知ってもらいたい」と話しました。



手作りの資料でラッカセイサブレの説明をする児童

海上の安全と無病息災を祈る

■鹿島神社の御船神事

市指定無形民俗文化財「鹿島神社の御船神事」(川崎区)が、11月4日に行われました。

江戸時代後期から続く鹿島神社の例祭で、海上安全と無病息災を祈る神事です。また、子どもを菱垣廻船の模型に乗せると、けがや病気にならないとも伝えられています。

神事では、菱垣廻船の模型（全長約2メートル）を鹿島の船若衆が担ぎ、「よいこらせ」「よいこらせ」と掛け声に合わせ、威勢良く荒波を越えて航海する様子を表現しました。



市民の力作で芸術の秋を楽しむ

■第13回牧之原市文化祭

第13回牧之原市文化祭が11月3日と4日、静波体育館や榛原文化センターなどで開催されました。

静波体育館では、市文化協会会員をはじめ、日ごろから創作活動をしている市民や園児、小中学生、高校生らの絵画や書道、水墨画、俳句、写真など、多くの力作が展示され、活動の成果が披露されました。

また、榛原文化センターでは、茶会やお茶の手揉み実演、お茶の試飲、囲碁大会、おはなし会などが行われ、来場者は芸術の秋を楽しみました。